

# 学内のハラスメントに関するアンケート 結果報告書

2011.3.31

岡山大学ハラスメント防止対策室

2010年1月に実施した標記アンケートの結果をご報告します。実質回収率は58%(3,796人)にのぼり、ご協力に感謝します。

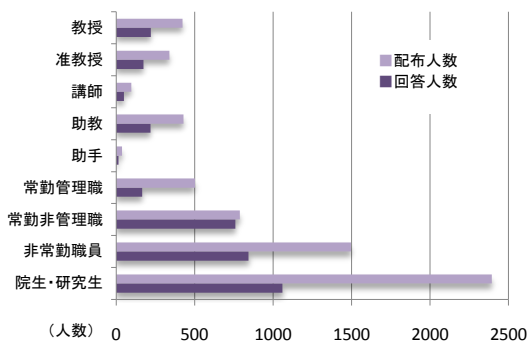
本学が規程を設けてハラスメント問題に取り組んで以来10年、ハラスメント防止委員会は意識啓発や研修を実施してきたにもかかわらず、継続的にハラスメント問題が発生しており、深刻な相談も後を絶たない状況にあります。2009年4月に開設されたハラスメント防止対策室は、ハラスメントのない(ゼロハラスメント)大学を目指して活動してきました。今回のアンケートは、10年前に実施された主にセクシュアル・ハラスメントに関する職場アンケートとは異なり、アカデミック・ハラスメントやパワー・ハラスメントに関する質問が加わっているため、回答者はハラスメントかどうかの判断に迷った場合もあったようです。

集計に当たってはプライバシー保護に留意し、回答の開示は行いません。問1に示すように、実質回収率は58%で、図1より常勤非管理職員はほぼ100%の方にご協力いただいております。図2より職種により男女回答数に偏りがあることが分かりますが、総計ではほぼ同数でした。

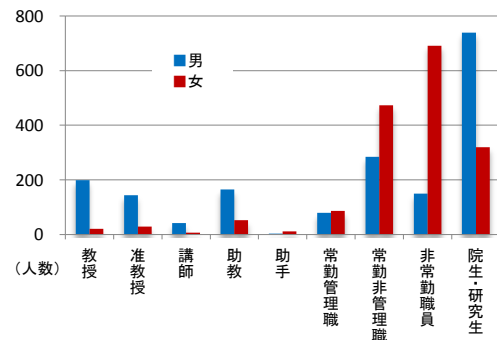
問7～問10の自由記述欄には、自分の体験談はじめ見聞きした告発、警鐘など370余人(回答者の約10%)の記述がありました。報復が恐ろしい、訴えると自分が不利益をこうむるのではないかと、訴えても無駄など、相談することを躊躇する場合も多いことが分かりました。一方で、訴え得になっているのではないかと、あまりにも気を遣い過ぎではないかなど、やりにくさを感じることも増えているようです。

教育の場では叱ることは必定ですが、問5、6からみえるように、言葉の選び方、丁寧な説明、相手の立場に立って考えるなどのちょっとした心遣いで、信頼関係が築けるのではないかと思います。人員削減や評価などによって仕事が増え、教職員全体がストレスを感じ、気持ちにゆとりを持って職務を遂行することがむずかしくなっています。人間関係がぎくしゃくしてきていると感じられる今こそ、一呼吸おいて、相手を思いやる必要がある気がします。

## 【問1】 あなた自身のことについておうかがいします。(アンケートの回答状況)



【図1】 アンケート配布人数と回収人数



【図2】 回答者の職種別男女割合

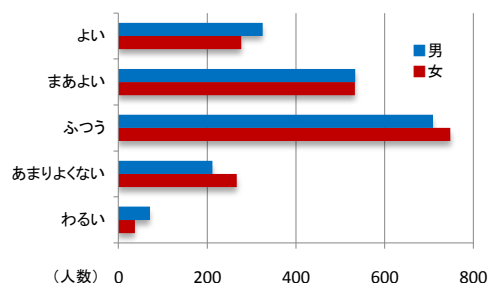
### 回収状況

	教授	准教授	講師	助教	助手	常勤管理職	常勤非管理職	非常勤職員	院生 研究生	計	職名空欄
配布人数	423	339	96	429	38	502	788	1,497	2,393	6,505	291人
回答人数	220	174	50	218	14	166	759	844	1,060	3,505	総回答人数
男	199	144	42	165	3	79	284	149	739	1,804	3,796人
女	20	29	7	52	11	86	473	691	320	1,689	回収率
性別空欄	1	1	1	1		1	2	4	1	12	58.4%

なお、以後、職種別とあるのは上に表示した教授～院生・研究生別を指し、分野別とあるのは医歯薬系、自然科学系、人文科学系、事務・技術系を指す。

**【問2】 現在、岡山大学でのあなたの職場環境、勉学環境はいかがですか。**

男女や職種にはあまりかわりなく、「よい」と「まあよい」を合わせると45%、「ふつう」が39%、「あまりよくない」と「悪い」を合わせると16%であった。大多数が大きな不満はない環境であると言える。



**【問3】 各種ハラスメントについて、あなたがその内容をどの程度ご存知かおたずねします。**

職種、男女にかかわらず、セクハラについては「知っている」と「ある程度は知っている」を合わせると平均91%となり、認識が深まっている。アカハラ(82%)、パワハラ(87%)はセクハラに比べて全体的に認識度が低く、内容が分かりにくいようである。また、教授、准教授は93%以上で、意識が高いことが分かった。

**【問4】 各種ハラスメントの内容について、あなたのご意見をうかがいます。(各項目4%程度無回答含む)**

**A) ハラスメント問題の解決は、当事者及びその周囲の者のみにまかせるべきである**

男女差はほとんどなく、職種別、分野別でもほぼ55%の者が「そうは思わない」。「どちらかといえばそうは思わない」を加えるとほぼ86%となり、関係者だけでの解決はむずかしいと思っている。

**B) 女性は男性に比べて、出産・育児等で不利益をこうむることが多い**

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を加えると男性75%、女性83%となる。

**C) 立場が上の人の意向には黙って従うことが望ましい**

分野別ではあまり差はなく、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を加えると29%である。院生・研究生および非常勤職員では34%~38%となり、指示に従おうと思う気持ちがうかがえる。

**D) 現在ハラスメントとされるほとんどの行為は、人間関係の中で許容範囲にありハラスメント問題は過剰にとりあげられている**

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を加えると全体平均で24%であった。常勤管理職で16%とやや低い。分野別では自然科学系と事務技術系が30%前後で他に比べやや高い。

**E) 女性が男性よりも優位な立場になることは心地よくない**

ほぼ85%の人が、女性が男性よりも優位な立場を受け入れている。

**F) ハラスメント行為を受けた場合、「やめてほしい」という意思表示をすれば、その行為は通常おさまるはずである**

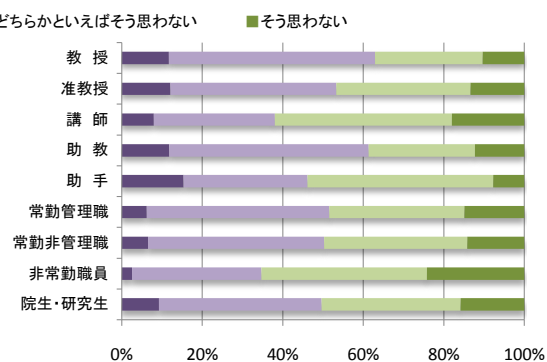
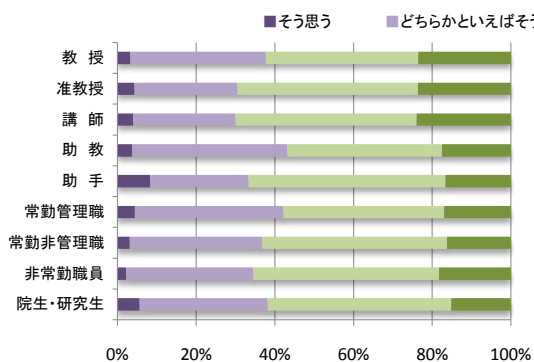
全体平均で68%が「そうは思わない」「どちらかというそうは思わない」と思っており、人文科学系では80%がおさまらないと感じている。

**G) 自分の身近では、権力を利用したいじめや嫌がらせなどは起きていない**

「そうは思わない」が平均17%、「どちらかといえばそうは思わない」を加えると平均37%ほどとなり、ハラスメントがあると感じている。事務・技術系、自然科学系では起きていないと思う人が多い(平均32%)。

**H) ハラスメントは、受けたという人にもどこか問題がある場合が多い(下図)**

**I) 自分も何かの折にハラスメントにあたる言動をしまっているかもしれない(下図)**



H) 受けたという人にもどこか問題がある場合が多い

I) 自分もハラスメントにあたる言動をしまっているかもしれない

I) では資格別では教授(63%)、分野別では自然科学系(52%)、医歯薬系(50%)がそう思う人が多い。

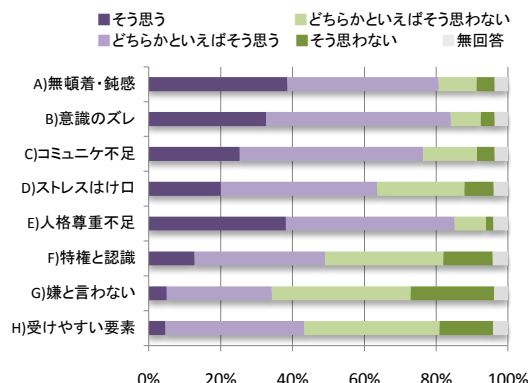
**J) 雰囲気壊さないために少々のハラスメントは我慢すべきである**

「そうは思わない」と「どちらかというそうは思わない」を合わせると平均74%となった。職種別では、院生・研究生がもっとも多い割合(30%)で我慢すべきだと回答している。

【問5】 ハラスメントは、それを受けた人の判断によります。各種ハラスメントの原因について、あなたのご意見をうかがいます。

ハラスメントの原因としてE)人格尊重不足, A)無頓着・鈍感, B)意識のズレが多く, 続いてC)コミュニケーション不足, が挙げられている。G)嫌だと言わない, H)受けやすい要素では割合が低い。

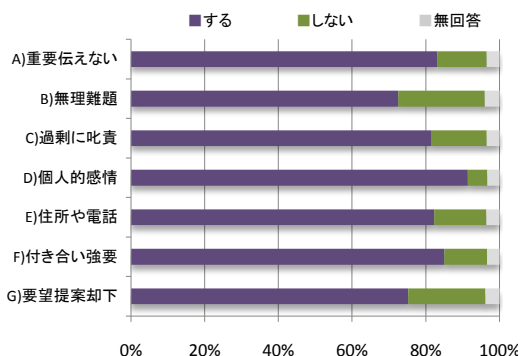
- A) ハラスメントを行う側が、相手を感じる痛みが無頓着・鈍感だから
- B) 地位や立場によって生じる意識のズレがあるから
- C) 地位や立場が違う者同士のコミュニケーション不足・欠如から
- D) ハラスメントを行う側がストレスのはけ口をもとめているから
- E) ハラスメントを行う側が他人の人格を尊重する態度の不足・欠如から
- F) ハラスメントに相当する行為は、特定の地位や立場を有する特権と認識しているから
- G) ハラスメントを受ける側が「嫌だ」と言わないから
- H) ハラスメントを受ける側に、ハラスメントを受けやすい要素(例えば、態度・行動・服装)があるから



【問6】 あなたは、地位や権力を利用して行われる以下の行為を、ハラスメントと判断しますか。

どの項目もハラスメントであるとの認識が高い。感じ方の個人差に加えて、各自の立場により判断基準が異なるため意識のずれが生じている。

- A) 教育・研究・仕事において重要なことを意図的に伝えない
- B) 教育・研究・仕事において、無理難題を押しつける
- C) 些細なミスにもかかわらず、皆の前で過剰に叱責する
- D) 個人的感情を持ち込んで、評価を下げる
- E) 住所や電話番号を調べ、教育・研究・仕事に関係がないのに、連絡する
- F) 教育・研究・仕事に関係がない付き合いを強要する
- G) 要望や提案に対して理由も言わずに却下する



【問7】 あなたは、岡山大学で以下の行為を受けた経験がありますか。「ある」と答えた場合の相手は誰ですか。下から選んでください。(回答数3,796人。受けた相手は上位2位まで。2位までに集中している)

- A) 教育・研究・仕事において重要なことを意図的に伝えない → ある：382人(10.1%) ..... 相手：教員, 職員
- B) 教育・研究・仕事において、無理難題を押しつける → ある：516人(13.6%) ..... 相手：教員, 職員
- C) 些細なミスにもかかわらず、皆の前で過剰に叱責する → ある：495人(13.0%) ..... 相手：教員, 職員
- D) 個人的感情を持ち込んで、評価を下げる → ある：424人(11.2%) ..... 相手：教員, 職員
- E) 住所や電話番号を調べ、教育・研究・仕事に関係がないのに、連絡する → ある：90人(2.4%) ..... 相手：教員, 職員
- F) 教育・研究・仕事に関係がない付き合いを強要する → ある：209人(5.5%) ..... 相手：教員, 職員
- G) 要望や提案に対して理由も言わずに却下する → ある：360人(9.5%) ..... 相手：教員, 職員

【問8】 あなたは、岡山大学で以下の行為をした経験がありますか。「ある」と答えた場合の相手は誰ですか。下から選んでください。(回答数3,796人。受けた相手は上位2位まで。4位までに分散あり)

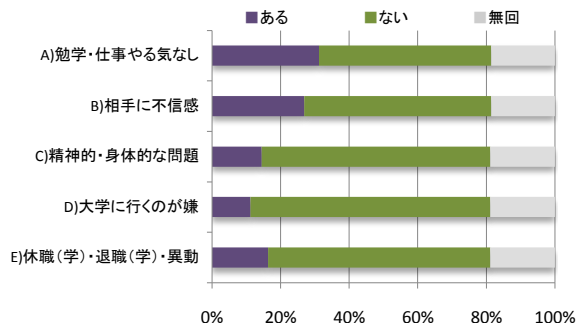
- A) 教育・研究・仕事において重要なことを意図的に伝えない → ある：54人(1.4%) ..... 相手：職員, 学生
- B) 教育・研究・仕事において、無理難題を押しつける → ある：53人(1.4%) ..... 相手：学生, 職員
- C) 些細なミスにもかかわらず、皆の前で過剰に叱責する → ある：67人(1.8%) ..... 相手：職員, 学生
- D) 個人的感情を持ち込んで、評価を下げる → ある：47人(1.2%) ..... 相手：職員, 学生
- E) 住所や電話番号を調べ、教育・研究・仕事に関係がないのに、連絡する → ある：23人(0.6%) ..... 相手：職員, 学生
- F) 教育・研究・仕事に関係がない付き合いを強要する → ある：34人(0.9%) ..... 相手：職員, 学生
- G) 要望や提案に対して理由も言わずに却下する → ある：31人(0.8%) ..... 相手：学生, 職員

問7, 問8を通して、ハラスメント相当行為を「受けた」経験は、「した」経験より8倍ほど多く、「した」かもしれないことに気付かない人が多いことになる。それぞれの相手は教員-学生間, 職員-職員間が多く、具体的な内容記述は375人/3,796人あり、ハラスメントかどうかの判断に迷ったという記述は278人あった。

**【問9】あなたは、岡山大学内での人間関係が原因で教育・研究・仕事で以下の不快な経験をしたことがありますか。**

回答のない人が710人前後/3,796人(約19%)ほどあった。不快な内容については376人に記述があり、「守秘厳守」と前置きされた体験も書かれていた。A)およびB)では 常勤非管理職の約半数(300人前後)、歯薬系の約半数近く(480人程度)が「ある」と回答している。

- A) 勉学・研究・仕事のやる気をなくしたり、自信をなくした
- B) 相手(加害者)を見ると不信感を抱き緊張するようになった
- C) 精神的・身体的な問題を生じた(頭痛・不眠・ノイローゼ・自殺念慮等)
- D) 大学に行くのが嫌になったり怖くなったたり休みがちになった
- E) 休職(学)・退職(学)・異動を考えた



**【問10】ハラスメント防止対策室の認知度**

A)ホームページ 29%, B)専門相談員 46%, C)ハラスメント判断不明でも相談可 33%が「知っている」であり、特に非常勤職員、院生・研究生の認知度が低かった。広報に努力したい。リーフレットの配布効果も期待している。

**自由記述**

**1) ハラスメントであるかないかの判断**

ハラスメントの定義は「その行為を受けた人が不快かどうか」という極めて主観的な判断によっており、相手との関係や状況、周囲の環境にも左右される。ハラスメントに関わる問題は「判断は難しく、回答に迷った」ことを通じて「ハラスメントの特性」を認識したという回答が多かった。

また、それぞれの立場による役割や職務に忠実かつ熱心である行為と、身勝手なハラスメント行為とは「一見似ているが非なるもの」であること、ハラスメントの判断としては、「教育的配慮はハラスメントと言わない」「安易にハラスメントと騒ぎ立てない」ことも必要で、「判断は慎重に」という意見も多かった。

**2) 深刻な不快経験**

問7～問10の自由記述では、「ハラスメントを受けた経験がある」は10%、「ない」は90%であった。問9の不快な経験は「記述あり」が376名(10%)で、その内容は「守秘厳守」と前置きされた深刻な体験記述だった。様々なハラスメントを受けながら、「何をしてもムダだと思う」「自分さえ我慢すれば」「相談したら余計に嫌がらせがひどくなると思われ不安で相談に行けない」「公にすることで職場に居場所が無くなってしまう」「将来レッテルを貼られるのが怖い」「卒業までの我慢」等、相談にも行けず、精神的苦痛を強いられているという意見も多かった。多かった意見を記す。

**学生はじめ受けた立場の意見…**

「えこひいきがひどい」、「ゼミ等みんなの前で能力がないと罵倒された」、「テーマを自分で考えろと言われ指導がなかった」、「就活を認めてくれない」、「研究室の先輩、後輩間の理不尽な習慣」、「事務業務の具体的な引き継ぎがほとんどない」、「日常的な無視・蔑視」

**指導する立場の意見…**

「学生の準備不足、勉強不足のためレベルの低い内容の発表をした際にきつく叱責した」、「困難に挑戦することが研究なので、学生には無理ばかりを押しつけることになる」、「乗り越えて欲しいと期待しての課題である」、「本人は些細なミスと思っているようであるが、極めて危険と判断したのでかなり叱責した」、「本人に考えさせるため、あえてこと細かく説明しない」

自由記述にこんな意見があり、うれしく思いました。

「私の担当教官は、ハラスメントと受け取られるリスクを怖れずに全力で指導してくれる。相当苦しい時もあるが、そのおかげで少しずつ小さい壁を越えられるようになった。過剰な予防、対策で先生方の熱意がかき消されることになれば、それは残念だと思う。」

本アンケートのお問い合わせ先:ハラスメント防止対策室 086-251-8511  
boushi@adm.okayama-u.ac.jp

本報告書は<http://www.okayama-u.ac.jp/user/sex-hara/boushi.html>に掲載されています。